

Plants for the Development
of the Area West of
Namie Station



浪江駅西側地区整備計画

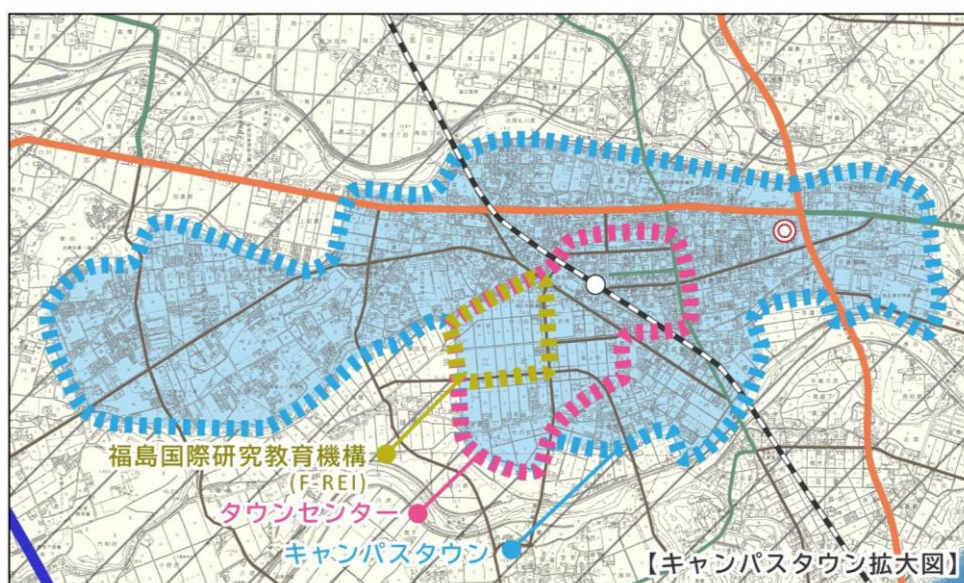
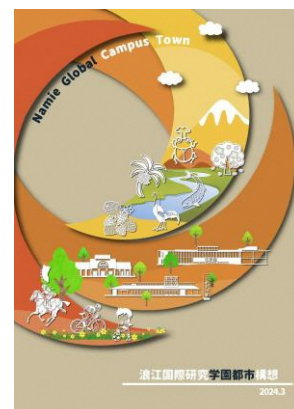
2025.4

目 次

1. 背景	1
2. 前提条件	2
2.1 上位計画・関連計画	2
2.1.1 上位計画	2
2.1.2 関連計画	2
2.2 地区を取り巻く状況	4
2.2.1 地区周辺の状況	4
2.2.2 地区の立地	5
2.2.3 浜通り地域の施設立地状況	6
3. 浪江駅西側地区まちづくりビジョン	7
4. 基本方針	8
4.1 大方針	8
4.2 個別方針	8
4.2.1 交流と学びによる共生・共創の場づくり	8
4.2.2 利便性と安心感のある生活環境の提供	8
4.2.3 イノベーションの場づくり	9
4.2.4 交通基盤の整備	9
4.2.5 環境への配慮と豊かな自然の活用	9
5. 整備方針	10
5.1 整備対象エリアの設定	10
5.2 導入機能	11
5.3 整備イメージ	11
5.4 地区を成長させる仕組み	14
5.4.1 考え方	14
5.4.2 地区の成長サイクル	14
5.5 共創の仕組み	14
5.6 工程計画	16
6. （参考）計画策定の経緯	17
7. （参考）用語集	17

1. 背景

- 浪江町は、国が設立した福島国際研究教育機構（以下「エフレイ」という。）の浪江町川添地区への立地を踏まえ、「浪江国際研究学園都市構想」を策定しました。
- 当該構想において、浪江駅及びエフレイ施設周辺を「タウンセンター」として位置付け、主に都市的サービス(芸術、文化、スポーツ、飲食、娯楽など)や日常生活全般に関わる利便性・サービスを提供する施設などを配置し、生活サービスの拠点化を重点的に推進し、産学官連携のための施設や産業化のための施設を適切に配置することとしています。



- そのうち浪江駅西側地区は、現在進行中の浪江駅周辺整備事業とエフレイ施設を結ぶ重要な位置にあり、これらの整備と時期を合わせて一体的に整備し、町内で不足する機能を補完することで、各事業・施設が相乗効果を発揮し、タウンセンターの機能の最大化が図られます。
- また、持続可能な国際研究学園都市を実現するためには、町による基盤整備と民間による施設整備を適切に組み合わせ、公民連携でまちづくりを進めることが重要です。このことから、町では公民連携セミナーの開催、民間事業者を主な対象者とした浪江駅西側地区公民連携まちづくりアイデア提案募集の実施等を通じ、公民連携まちづくりへの機運を醸成しているところです。
- このような背景のもと、町が先導的に基盤整備を行い、民間の投資環境を整え、民間のノウハウを活かした魅力的な都市機能の導入を促進する公民連携のまちづくりについて、包括的な道筋を示すため、本計画を策定します。

2. 前提条件

2.1 上位計画・関連計画

浪江駅西側地区の上位計画、関連計画は以下のとおりです。

2.1.1 上位計画

① 浪江町復興計画【第三次】（2021（令和3）年3月）

浪江町復興計画【第三次】では、浪江駅西側地区は、『復興の基本方針Ⅲ 帰還困難区域の再生と住みよい環境づくり 施策2 社会基盤の維持・整備（1）浪江駅周辺を核とした中心市街地整備』に関連します。

② 浪江国際研究学園都市構想（2024（令和6）年3月）

「地域とエフレイをはじめとした多様な主体が共生する持続可能なまちづくりの実現」をビジョンに掲げ、概ね用途地域が指定されている範囲をキャンパスタウン、中心市街地先導整備エリアとエフレイ敷地を含むその周辺をタウンセンターと位置付け、地域全体の産業創出、人材育成、文化の継承と創造、人口増加に結び付け、地域と多様な主体が共生する持続可能なまちづくりの実現を目指しています。

2.1.2 関連計画

① 中心市街地・浪江駅周辺整備

中心市街地浪江駅周辺整備に係る関連計画は、次の4つの計画に基づき整備が進められています。

a) 中心市街地再生計画（2017（平成29）年3月）

復興に向け、町民が主体となるまちづくりが可能となるような中心市街地の再生の方向性を示す

計画で、中心市街地の対象範囲（約160ヘクタール）と将来イメージ、各ゾーンにおける機能と核となる拠点との連携（回遊性の向上）について示しています。



出典：中心市街地再生計画

b) 浪江駅周辺エリアのまちづくりビジョン（2020（令和2）年3月）

浪江駅周辺エリアでの事業所や店舗の再開などにぎわいの回復をさらに進める、新たな「まちの顔づくり」として、『先導整備エリア』と『まちづくり推進エリア』を位置付けています。

c) 浪江駅周辺整備計画（2021（令和3）年3月）

『先導整備エリア』について、浪江駅東側エリアは、“居住・交流・商業の各機能を一体的に配置する人が中心のコンパクトな新生活ゾーン”、浪江駅西側エリアは“公共公益サービス

拠点・大規模集客拠点及び交通結節機能を活かした移動拠点”として位置付けています。

d) 浪江駅周辺グランドデザイン基本計画（2022（令和4）年3月）

「浪江駅周辺整備計画」に基づいて整備を行う建物や街並みのデザインを定めており、“「なみえルーフ」が生み出す、人のつながり”、“木材や再生可能エネルギーを活かした環境モデル”、“浪江ならではの自然の特徴や素材の活用”の3つをコンセプトに掲げています。

2024（令和6）年10月21日に、起工式が開催され、工事に着手しています。

② 浪江町地球温暖化対策総合計画～なみえエネルギーチャレンジ2035～（2023（令和5）年3月）・なみえ水素タウン構想（2021（令和3）年7月）

令和2年3月5日にゼロカーボンシティ宣言を行い、商業、工業、農業、水産業、交通、教育、福祉等、様々な分野において、再エネ・省エネはもちろん、水素利活用及び実証を積極的に推進し、ゼロカーボンシティ達成を目指しています。

浪江町地球温暖化対策総合計画では、2030年度までに町のカーボンニュートラルに向けて達成率50%を目指し、2035年度を待たずに達成率100%を目指しています。

また、なみえ水素タウン構想に基づき、浪江産水素を活用した水素利活用に関する実証事業等の数多くの先進的な取組が実施されています。

③ 福島イノベーション・コースト構想（2017（平成29）年5月福島復興再生特別措置法改正法）

東日本大震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業を回復するため、当該地域の新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクトです。

「廃炉」「ロボット・ドローン」「エネルギー・環境・リサイクル」「農林水産業」「医療関連」「航空宇宙」といった重点分野におけるプロジェクトの具体化を進め、産業集積の実現、教育・人材育成、交流人口の拡大、情報発信等に向けた取組を進めていくものです。

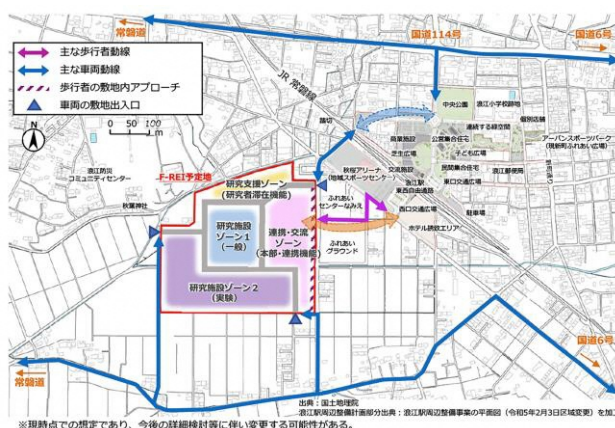
④ エフレイ関連計画

a) 福島国際研究教育機構基本構想（2022（令和4）年3月復興推進会議決定）

エフレイを、福島をはじめ東北の復興を実現するための夢や希望となるものとするともに、我が国の科学技術力・産業競争力の強化を牽引し、経済成長や国民生活の向上に貢献する、世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」を目指す施設とする方向性を定めています。

b) 福島国際研究教育機構の施設基本計画（2024（令和6）年1月復興大臣決定）

エフレイの施設整備のための基本計画で、敷地は浪江駅西側に位置し、面積は約16.9ha、施設の規模は、総延床面積約83,900㎡が予定されています。



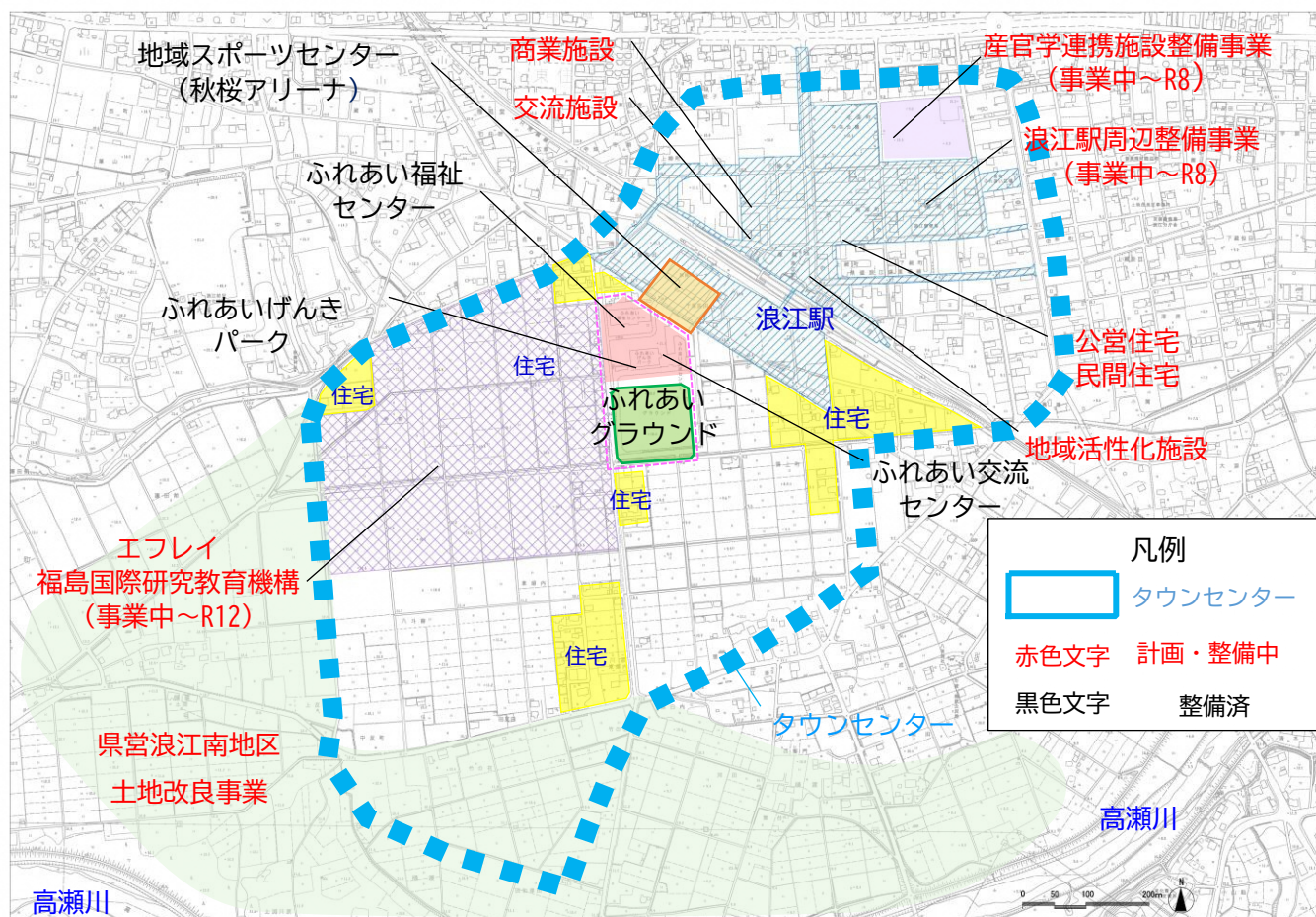
出典：福島国際研究教育機構の施設基本計画

2.2 地区を取り巻く状況

2.2.1 地区周辺の状況

- 浪江駅西側には、浪江町地域スポーツセンター、ふれあい交流センター、ふれあいげんきパーク、ふれあい福祉センター、ふれあいグラウンドなどが立地し、公共施設が集中しており、現在では、エフレイ施設の整備が進行中です。
- 浪江駅を中心として浪江駅周辺整備事業と産学官連携施設整備事業が進行中であり、浪江駅東側には、交流施設、商業施設、公営住宅・民間住宅、地域活性化施設、産学官連携施設を整備予定です。
- エフレイの西側や高瀬川の北側は、県営浪江南地区土地改良事業が計画されており、営農再開に向けた環境整備が進んでいます。

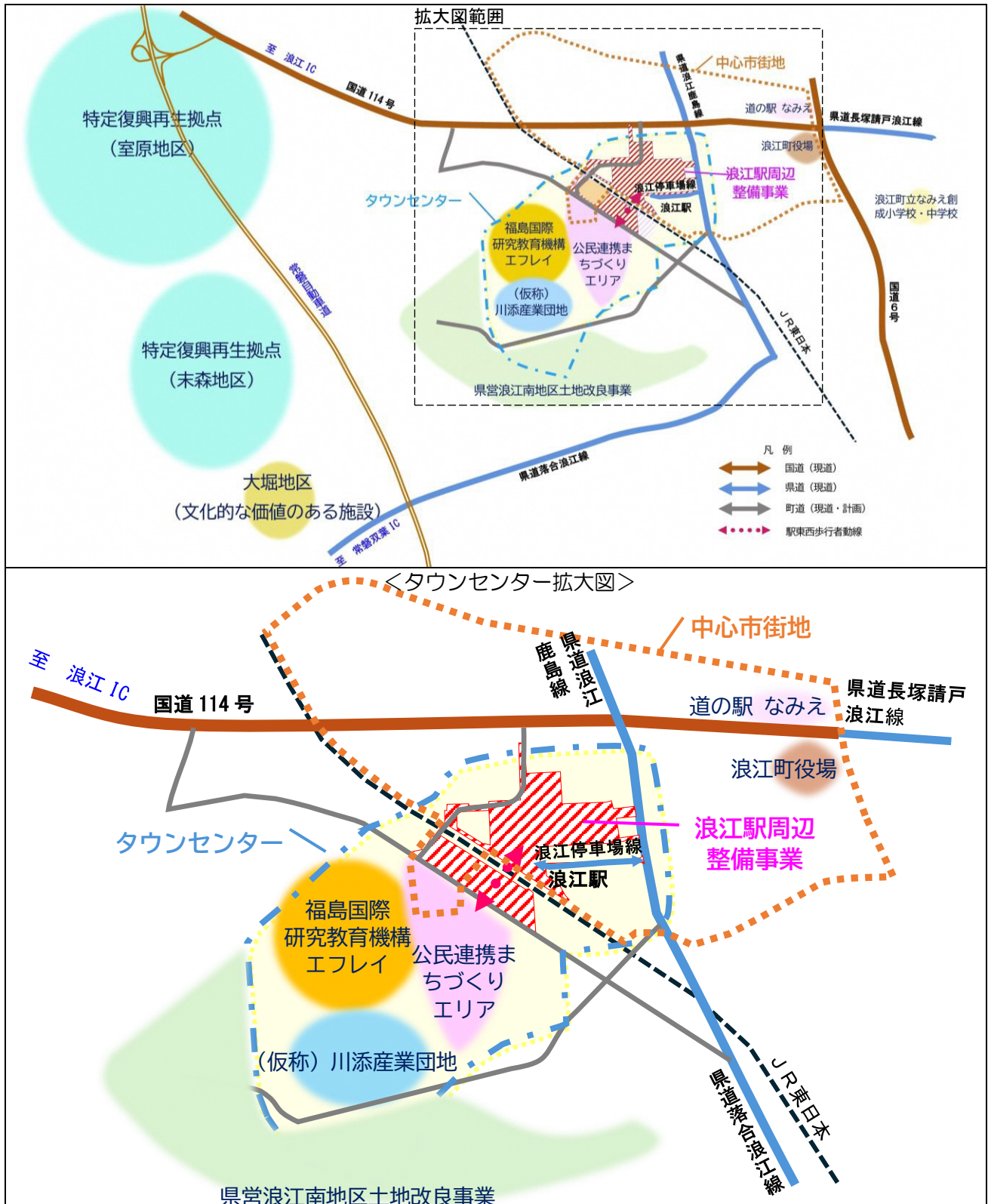
■地区周辺の状況



2.2.2 地区の立地

- 浪江駅東西自由通路が整備されることから、通路を介してエフレイからの人流を中心市街地に回遊させていく起点の位置にあります。
- 常磐道浪江 IC、双葉 IC からアクセスの良い立地にあります。

■地区の立地状況図



● 教育・医療・商業施設、インキュベーション施設の状況は次の通りとなっています。



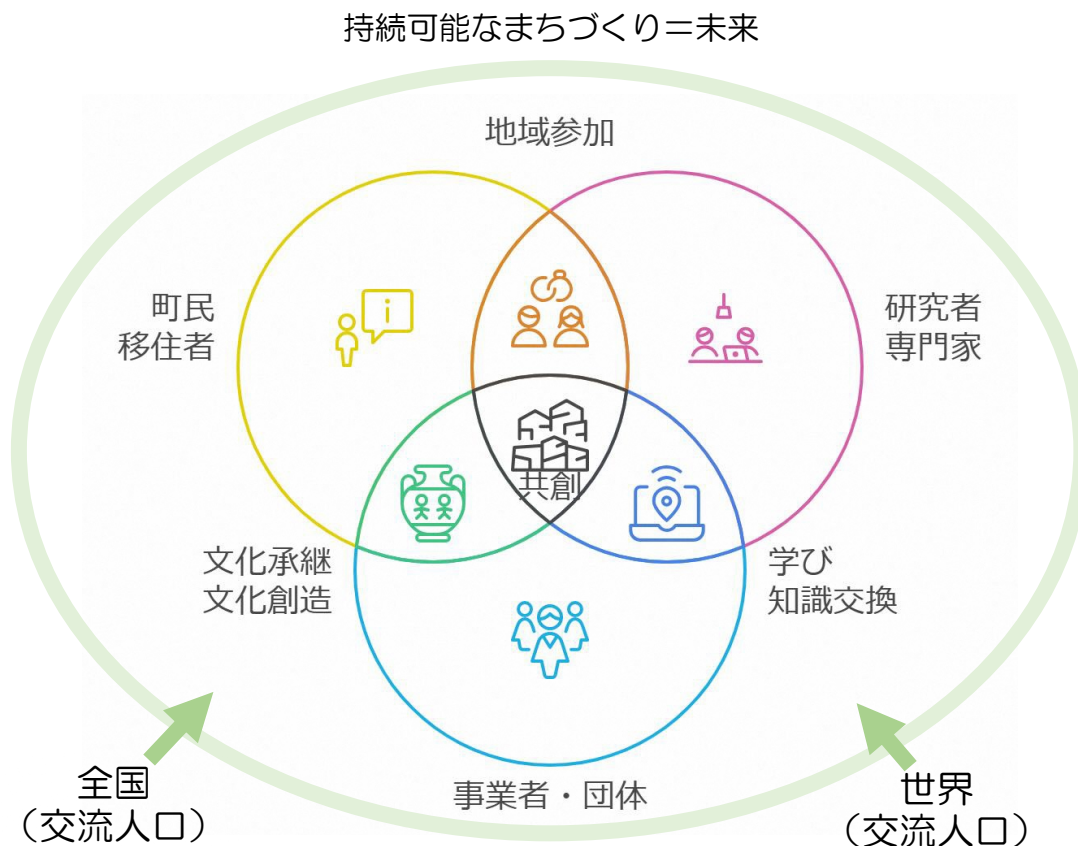
3. 浪江駅西側地区まちづくりビジョン

『浪江町のこれまでと未来が共存し、地域と世界がつながるまち』

- 浪江駅西側地区は、地域の復興と町民の帰還を支援するとともに、エフレイを中心とした研究学園都市として新たな役割を果たす拠点です。
- この地区では、町民と国内外の研究者等が交流し、地域文化と先端研究が融合する「新しい共存のかたち」を目指します。
- 町民、研究者等が新たな交流を通じて一体となって町の未来を「共創」（※注）し、民間資本や民間のノウハウなどを活用した公民連携の視点を併せ持ちながら、持続可能な発展を実現するまちづくりを行います。

※注「共創」については「5.5 共創の仕組み」を参照

■浪江駅西側地区まちづくりビジョンのイメージ



4. 基本方針

4.1 大方針

- 浪江駅西側地区は、浪江駅周辺整備事業とエフレイ施設整備と時期を合わせて一体的に整備することで、各事業・取組の相乗効果を生み、タウンセンター全体の価値を高め、最大限の効果を目指したまちづくりを進めます。
- 浪江駅東西自由通路を通じて、エフレイからの人の流れを中心市街地に回遊させて、駅の東西エリアの活性化を進めます。同時に、この地区が町に不足する機能を補い、町全体の復興に貢献するまちづくりを目指します。
- 今後の浪江町の発展に伴い拡充等が予見されるサービス機能などについて、より質の高い民間投資を促すため、町が先導的に基盤整備を行い、その後の施設や建物の整備、建築、経営、運営は民間による事業として実施します。
- 浪江駅周辺整備事業やエフレイ施設整備に伴い、この地区の利用者数や利用者の顔ぶれは変化します。地区の成長段階によって、ニーズや課題も変わるため、地区の成長に合わせて柔軟に更新・発展するまちづくりを目指します。

4.2 個別方針

4.2.1 交流と学びによる共生・共創の場づくり

- 既存の公共施設などで、住民と研究者等が日常的に自然に交流し、まちの活動に誰もが参加できる環境を築きます。この交流を通じて、研究者等が浪江町の生活、歴史、文化に触れ、この町を生活の場として選ぶきっかけをつくります。
- 多文化、先端研究、ソーシャルビジネス、研究成果を活かした体験プログラムなど、多様な「学び」に触れられる環境を整えます。また、楽しみながら学べる機会と娯楽や遊びを融合させ、子どもから大人まで共に学び、育つ、地域に根ざした未来の学びの場をつくります。
- 多様な文化背景を持つ人々が集うまちとして、食文化や遊びを通じた相互理解を深め、多文化が共生する豊かで活気のある新たな浪江文化を育みます。
- 町民がエフレイ等の活動に触れ、先端的な研究が行われているまち」としての誇りを持てる環境を整えます。この誇りを基盤に、何らかの世界一が生まれる町を目指します。



ふれあい交流センター

4.2.2 利便性と安心感のある生活環境の提供

- 地域密着型、生活密着型のサービスを提供する店舗に加えて、健康、医療や福祉機能を

誘導し、誰もが安心して暮らせる生活環境を創出するとともに、まちに足りないスポーツ、芸術、文化、ファッション、美容、健康などの多様なサービスや体験を提供する事業を町に呼び込み、暮らしの選択肢の拡大と余暇も含めた生活全般の充実を図り、子どもも大人も楽しく生活できるまちづくりを進めます。

- これによりまちの魅力を向上し、エフレイに関わる方々のみならず誰からも生活拠点として選んでもらえるようなまちづくりを目指します。



ふれあいげんきパーク

4. 2. 3 イノベーションの場づくり

- 福島イノベーション・コースト構想等を踏まえ、町から失われた産業の回復を促進するため、新たな産業団地を整備し、情報通信業や研究開発機関、サービス業など、都市型産業の誘致を進めます。
- 地域課題・社会課題解決に取り組む新産業や地場産業など、多様な事業の場となり、地域経済活性化への寄与する場を創出します。



棚塩産業団地

4. 2. 4 交通基盤の整備

- 浪江駅西側地区の交通基盤は、域外から訪れる研究者、事業者、観光客等が快適に移動できる多様なモビリティを誘導することで、まち全体をつなぐ機能の強化を図ります。
- 浪江駅やエフレイ施設を中心に、スモールモビリティのポート、EV 充電ステーションなどの配置が可能な敷地として、必要に応じてユーティリティ用地を確保します。
- 中心市街地や高速道路 I C へのアクセス道路の整備や道路改良を促進し、広域的なアクセス向上と町内各施設との連携を強化します。



低速電動コミュニティバス
(群馬県桐生市) の事例



4. 2. 5 環境への配慮と豊かな自然の活用

- 町のカーボンニュートラルの目標達成に向け、当地区においても再生可能エネルギーの積極的活用、エネルギーの地産地消、省エネ技術導入等により、持続可能なまちづくりを目指します。
- 周囲の豊かな自然、田園景観を活用し、生き物とふれあえる環境づくりを行い、町民や研究者等にとっての「交流の場」、「癒しの場」としての役割も担います。



南池袋公園（東京都豊島区）
2019 年にリニューアルし、まちのオアシスとして評価が高い事例

5. 整備方針

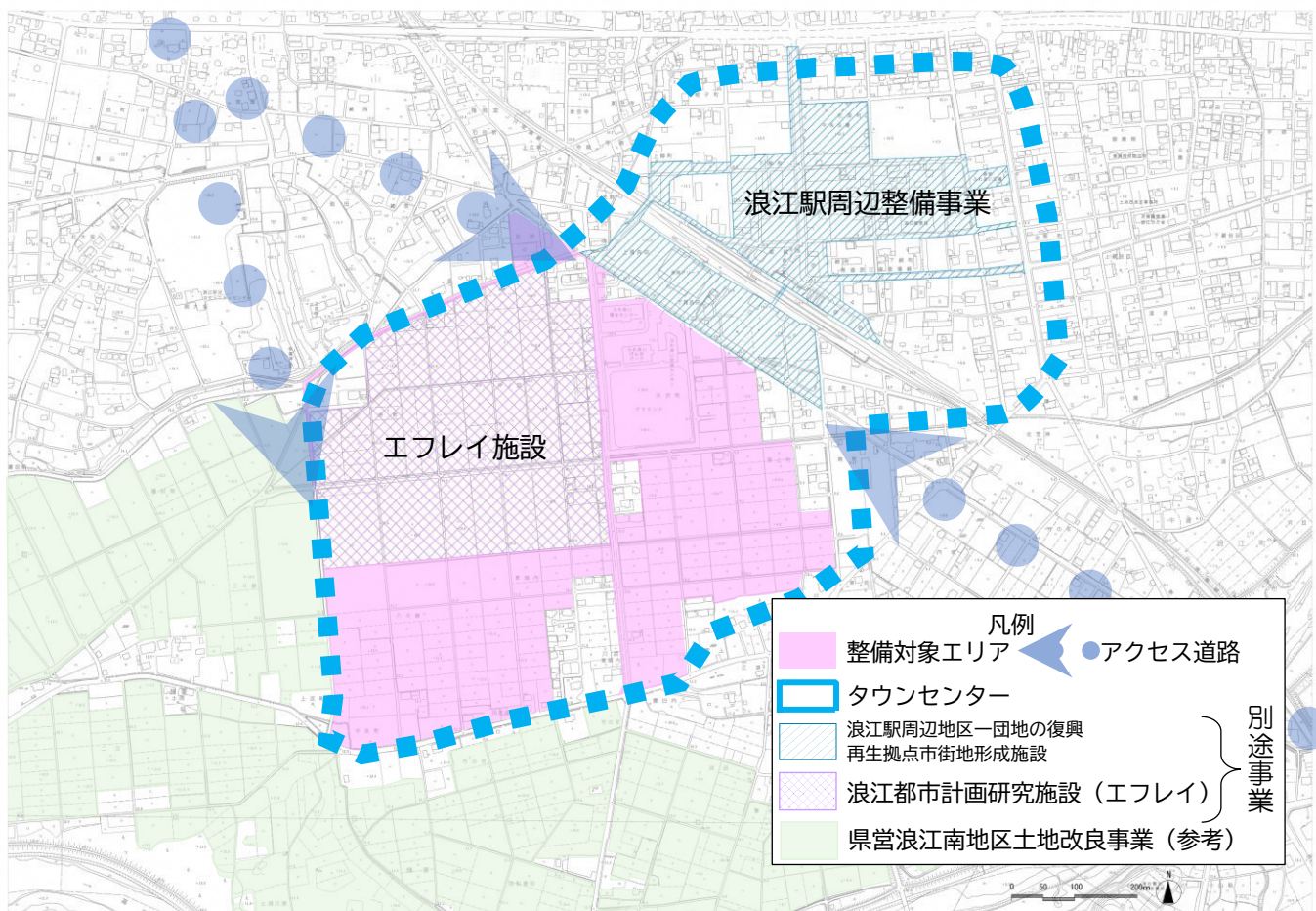
5.1 整備対象エリアの設定

住民の居住状況、営農再開の状況、周辺の整備状況等を勘案して、整備対象エリアを図のとおりに設定します。

タウンセンター内で、浪江駅周辺整備事業、エフレイ施設の区域、本地区の整備対象区域でない区域は、営農再開に向けた農地や住宅等のエリアとします。農地は県営土地改良事業、住宅等は土地所有者や民間による事業とします。

また、タウンセンターの区域と県営土地改良事業の区域が重複する範囲について、タウンセンター区域から除外することとします。

■整備対象エリア図（現段階の案であり、引き続き、精査していきます。）



5.2 導入機能

「4. 基本方針」を踏まえ、導入機能を次のように設定します。

○**交流と学びによる共生・共創の場づくり**に関する機能

➤ 導入機能例

- ・多世代・多文化交流の場
- ・人材育成や学習、共創の場
- ・地域の伝統文化等の情報発信や多様な文化の相互理解の場
- ・食文化や遊びなどの様々な体験、学びを提供する教室、スクール 等

➤ 効果

- ・多様な主体の交流促進、コミュニティの活性化
- ・次世代人材育成、地域の担い手確保
- ・多様な学びの機会提供
- ・地域文化の継承、新たな文化創造
- ・町への町民、研究者等の定着
- ・シビックプライドの醸成

○**利便性と安心感のある生活環境の提供**に関する機能

➤ 導入機能例

- ・健康、医療、福祉機能
- ・スポーツ、芸術、文化、ファッション、美容、健康などの多様なサービス提供機能、余暇の充実に資する機能
- ・地域密着型、生活密着型産業（店舗、サービス業） 等

➤ 効果

- ・生活利便性、快適性の向上による生活の質の向上
- ・楽しみ暮らせる町での選択肢の拡大
- ・余暇を含めた生活全般の充実
- ・町への町民、研究者等の定着
- ・シビックプライドの醸成

○**イノベーションの場づくり**に関する機能

➤ 導入機能例

- ・各種産業用地・事業用地
- ・地域課題・社会課題解決に取り組む新産業や地場産業等の事業所等

➤ 効果

- ・新産業の創出等による地域経済活性化、地域等の課題解決
- ・イノベーションと地場産業の融合
- ・雇用・就労機会の創出

○**交通基盤の整備**に関する機能

➤ 導入機能例

- ・モビリティポート・スポット
- ・次世代モビリティに関するインフラ、実証機能
- ・広域アクセス道路

➤ 効果

- ・まちの回遊性向上と町内の交流の活性化
- ・町内外へのアクセスの利便性増進
- ・交通便利性向上に伴う交流人口、関係人口の拡大

○**環境への配慮と豊かな自然の活用**を創出する機能

➤ 導入機能例

- ・エネルギー、環境技術に関する実証機能
- ・公園、緑地、田園地域のランドスケープ
- ・生き物とふれあう場

➤ 効果

- ・持続可能な環境配慮型まちづくり
- ・持続可能な環境形成
- ・自然や生き物に触れることによるリラクゼーション、癒し
- ・自然と生き物を介した交流の促進

5.3 整備イメージ

「4. 基本方針」を踏まえて、次図に示す3つのゾーンに分けて、浪江駅西側地区の整備・検討を進めていきます。

■整備イメージ図（現段階の案であり、引き続き、精査していきます。）

周辺に存する既存の店舗や住宅を基盤に、日々の暮らしの中で町民と研究者等が自然に交流し、共生する環境を提供し、日常を通じて浪江町の生活文化が息づき、食文化や遊びなど身近な生活の中で多文化相互理解が図られ、新たな浪江文化が生まれる場を目指します。

＜機能等＞

地域密着型、生活密着型産業（店舗、サービス業）／多様なサービス提供機能 等

産業団地を整備し、情報通信業や研究開発機関、サービス業など、都市型産業や、地域課題・社会課題解決に取り組む新産業、地場産業など、多様な事業の場となります。

＜機能等＞

産業団地／多様な事業所 等

ゾーン①

「交流と学びによる共生・共創の場」、「利便性と安心感のある生活環境の提供」、「交通基盤の整備」を担い、併せて、「イノベーションの場」の一部を担うゾーン

ゾーン②

「交流と学びによる共生・共創の場づくり」、「利便性と安心感のある生活環境の提供」、「イノベーションの場づくり」、「環境への配慮と豊かな自然の活用」を担うゾーン。

ゾーン③

「イノベーションの場」を担うゾーン



既決定済都市施設（別途事業）

アクセス道路

浪江駅

エフレイ施設

（仮称）川添産業団地

ゾーン③

既存の公共施設、エフレイ施設の存在を活かし、交流と学びによる共生・共創の場を生み出します。

日常的に自然に交流し、まちの活動に誰もが参加できる環境を築き、子どもから大人まで共に学び、育つ、地域に根ざした未来の学びの場を目指します。

＜機能等＞

多世代・多文化交流の場／人材育成や学習、共創の場／地域の伝統文化等の情報発信や多様な文化の相互理解の場 等

周辺整備事業

浪江駅

浪江駅西側エリアは、エフレイへのアクセス経路（エフレイ回廊）となる位置にあり、エフレイの供用開始に合わせて、最優先で整備を進める必要があります。

ゾーン北側の駅前付近は、初めて浪江駅西側を訪れた人への第一印象を決定する重要なゾーンであり、玄関口としてふさわしい広場などを整備します。

健康、医療や福祉機能、まちに足りない多様なサービス等を誘導するとともに、多様なモビリティを誘導し、まち全体をつなぐ機能の強化を図ります。

＜機能等＞

広場／健康、医療／福祉／多様なサービス提供機能／スモールモビリティ等のポート／EV充電ステーション 等

様々な学び、余暇の充実、スポーツ、芸術、文化、ファッション、美容、健康などのサービスを提供する事業者や、身近な地域課題解決等に向けた実証等を行う事業者の受け皿となり、共創の具現化が更なる共創に結びつくような共創のフィールドを目指します。

＜機能等＞

学びや体験の場／余暇の充実に資する機能／多様なサービス提供機能／事業の場／実証機能 等

ゾーン②

現況の森林などを活かした公園、緑地とするとともに、生き物とふれあえる環境づくりを行います。また、住まう機能とサービス機能が融合したケア付き住宅、サービスアパートメントなどを誘導し、周辺の住宅地と調和したまちづくりを進めます。

また、必要に応じて、再生可能エネルギー活用や省エネ技術導入等のインフラを配置します。

＜機能等＞

公園／緑地／生き物とふれあう機能／住まう機能とサービス機能の融合／再生エネルギー関係の機能 等



5.4 地区を成長させる仕組み

5.4.1 考え方

今後の浪江町の発展のためには、町の成長に応じて永続的に公共施設を整備していくのではなく、民間の投資による成長が必要不可欠です。

そのためには、今後の浪江町の発展に伴い拡充等が予見されるサービス機能などについて、より質の高い民間投資を促すため、町が先導的に基盤整備を行います。

そのうえで、町全体の取組と調和したまちづくりを当該エリアにおいても推進するため、当面の間、町が一定程度関与し、町や住民のニーズに沿った民間投資を募りながら、持続発展性のある町づくりを進めていくこととします。

5.4.2 地区の成長サイクル

<草創期：基盤整備>

- 浪江駅とエフレイへのアクセス経路（エフレイ回廊）とその周辺部を最優先で整備する。
- 多目的、多用途で利活用可能なユーティリティスペースを整備し、町民、研究者等の交流の場とする。
- 既存施設などを活用した町民、研究者等の交流の場を創出し、都市機能更新が可能な仕組みを導入する。

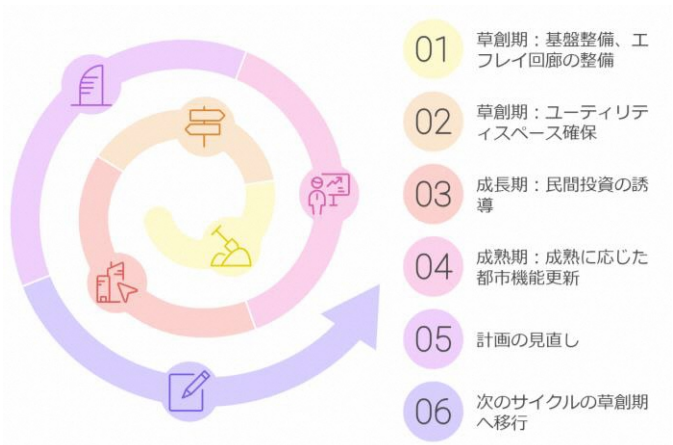
<成長期：民間施設整備>

- 民間による店舗、サービス施設など町民、研究者等の生活水準を向上させる多様な民間投資を誘導する。

<成熟期：成長に応じた都市機能更新>

- 町の成熟に応じて都市機能更新を誘導し、更なる地区の熟成を図る。
- 必要に応じて、計画の見直し、用途地域変更を行う。

■地区の成長サイクル



5.5 共創の仕組み

町では、浪江駅西側地区公民連携のまちづくりを推進していくために、町民や民間企業等の知見を最大限に活かしながら、最新のサイエンスやテクノロジーを積極的に活用して“町の課題”の解決に取り組み、更に町に不足する多様なリソースを町外から誘導し、町の新たな魅力や価値を創出する「共創」を進めていきます。

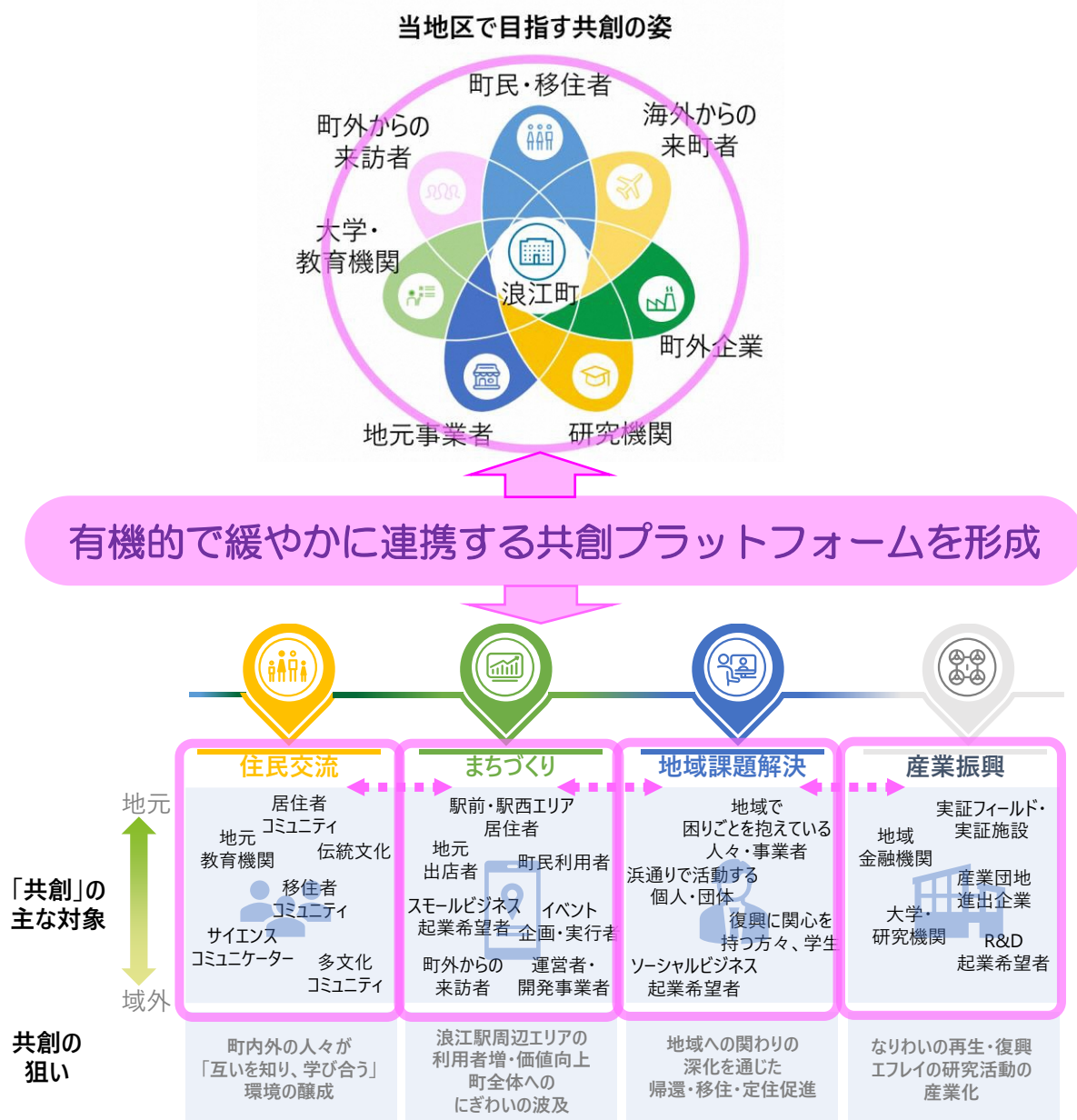
エフレイの立地や、浪江駅周辺の開発を機に、浪江町に関わる人/企業が多様化・多層化する

ことが想定されることから、これらの多様な人/企業が互いの理解を深める場や機会を積極的に設けながら、新たな出会いや事業の創出を促進します。

浪江駅西側地区は、町民や研究者等が交流を通じて新たな活動を生み出す場として成長していきます。その活動は、お互いが理解を深め合い、学び合うことで、地域課題が共有されるようになり、それが、研究活動や地域の知恵等と結びついて、生活環境と地域の価値向上や新たな価値創造、地域課題解決型の新ビジネスやスモールビジネスの誕生などにつながっていく可能性を秘めています。

その可能性を高めていくために、下図に示したような多様な主体による、様々な分野の取組をつなげて緩やかに連携する「共創プラットフォーム」を形成することが重要です。

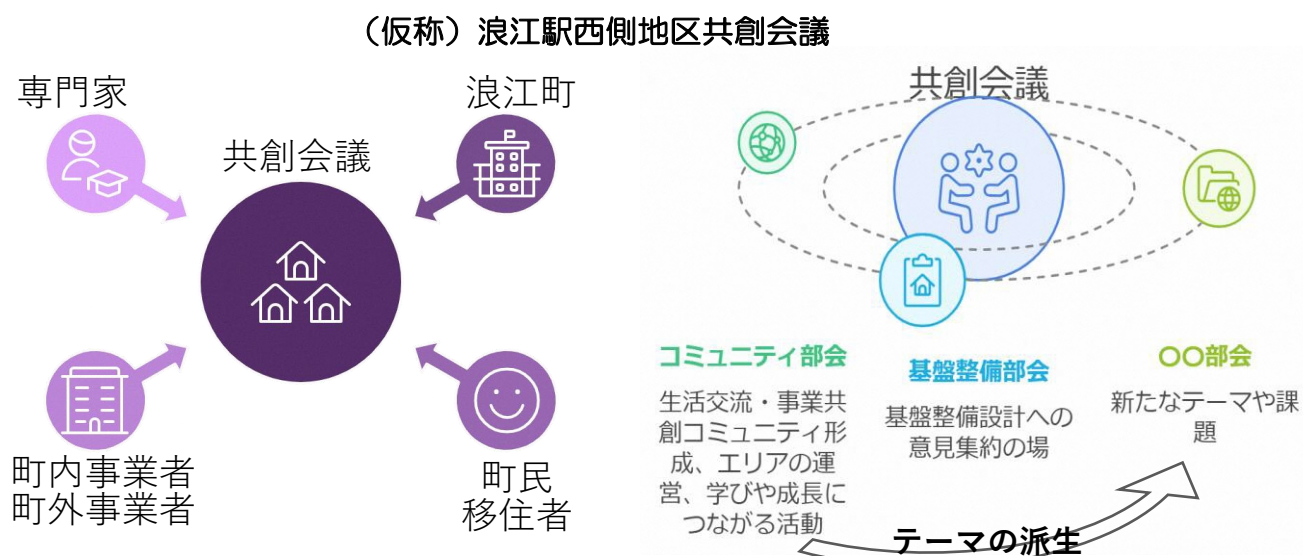
■当地区における共創の考え方



共創の仕組みを機能させるため、町民や町内外の事業者等が参画する「共創の場」が必要となります。共創の場として、当地区のまちづくりに貢献したいと考える個人・団体の参加を募り、（仮称）浪江駅西側地区共創会議（以下「共創会議」という。）を設置することを、今後、検討します。

共創会議では、地域課題解決、当該地区の段階的な成長、持続可能な発展に向けて話し合いを行います。町で行う当地区の基盤整備設計への意見集約などの場となる「基盤整備部会」など、必要に応じてテーマ別部会の設置も検討します。

■共創の場のイメージ



5.6 工程計画

- エフレイ施設の供用開始時期に歩調を合わせて、浪江駅西側地区も順次整備を進めていきます。
- この工程は、現段階の想定であり、整備や運営に係る財源確保等の状況に応じて随時見直しを図っていきます。

年度		R7	R8	R9	R10	R11	R12～
町 施 行	計画設計						
	都市計画等手続き		都市施設の決定、用途地域の変更等を想定				
	用地取得						
	基盤整備						
	公民連携まちづくり事業者募集、企業誘致等						
民間 施 行	施設建築、整備						
	施設運営						

6.（参考）計画策定の経緯

令和6年6月26日～7月12日	公民連携まちづくりエリア地権者意向調査
令和6年7月7日	公民連携セミナー（第1回）【機運醸成】
令和6年7月31日	浪江駅西側地区公民連携アイデア提案募集説明会
令和6年7月31日～10月11日	浪江駅西側地区公民連携アイデア提案募集
令和6年8月3日	（仮称）川添産業団地住民説明会
令和6年10月3日	PPP/PFI フォーラム in なみえ開催
令和6年11月5日	公民連携セミナー（第2回）【アイデア提案発表】
令和6年12月11日	浪江町議会全員協議会への整備計画（素案）説明【中間報告】
令和7年1月25日	公民連携セミナー（第3回）【整備計画への町民等意見把握】
令和7年3月5日	浪江町議会全員協議会への整備計画（案）説明【最終報告】

7.（参考）用語集

あ行

イノベーション 新しい技術やアイデアを取り入れて、新たな価値を生み出したり、これまでの仕組みを改善したりすること。

か行

カーボンニュートラル 二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量と吸収量を差し引きでゼロにすること。地球温暖化対策として世界的に取り組まれています。

共創 異なる立場の人々が互いの知識や経験を活かしながら、共に新しい価値を創り出すこと。

さ行

シビックプライド 自分の住むまちに愛着と誇りを持ち、まちをより良くしていこうとする気持ち。

スモールモビリティ 電動バイクや小型電気自動車など、1～2人乗りの小さな移動手段のこと。環境にやさしく、高齢者も使いやすい特徴があります。

た行

タウンセンター まちの中心となる地区のこと。様々な施設が集まり、人が集う場所となります。

な行

なみえルーフ 浪江駅周辺整備で浪江駅前に整備されるシンボリックな大屋根。人々の集まりとつながりをつくり、賑わいを生み出します。

は行

プラットフォーム 様々な活動や取組の基盤となる場所や仕組みのこと。多くの人や組織が参加し、互いに協力し合える環境を指します。

ま行

モビリティポート 電動バイクや電動キックボードなどの乗り物を借りたり、返却したりできる場所のこと。

ら行

ランドスケープ まちの景観や自然環境を計画的に整備すること。公園や緑地などを含む、まち全体の景観づくりを指します。



浪江駅西側地区整備計画

Plans for the Development of the Area West of Namie Station

2025（令和7年）4月発行

発行
福島県浪江町